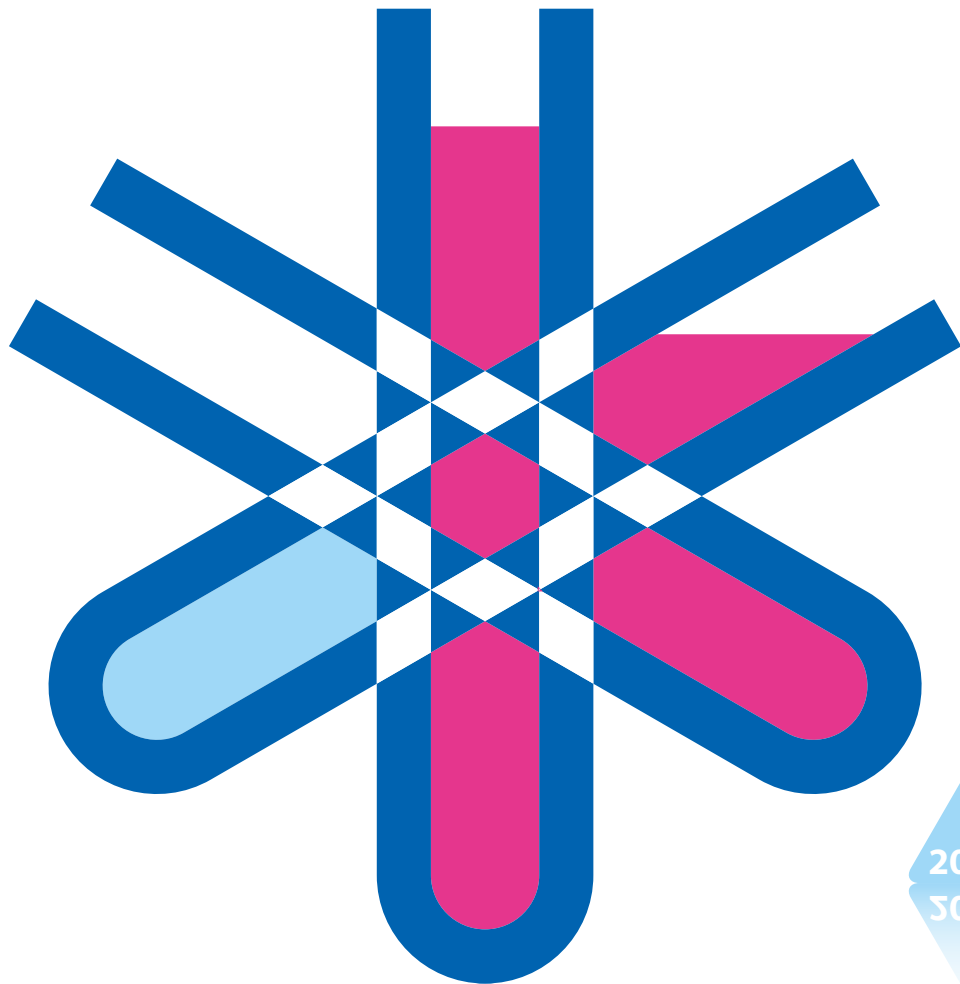


# 横查情報月報



2023  
5053

11

横浜市衛生研究所

# 令和5年11月号 目次

## 【検査結果】

農産物の残留農薬検査結果（令和5年7月～8月） .....	1
-------------------------------	---

## 【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報（令和5年10月） .....	4
------------------------------	---

## 【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和5年10月） .....	5
-----------------------------	---

\* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

## 農産物の残留農薬検査結果（令和5年7月～8月）

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、令和5年7月～8月に医療局食品専門監視班が収去した冷凍食品及び市内産農産物の検査結果を報告します。

冷凍食品については、7月にブロッコリー及びほうれんそう各2検体、アスパラガス1検体の計5検体、市内産農産物については、8月に日本なし8検体、なす2検体の計10検体、合計で15検体の検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。日本なし8検体及びほうれんそう1検体から延べ39項目の農薬が検出されましたが、基準値を超えたものはありませんでした。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

表1 冷凍食品及び市内産農産物の残留農薬検査結果 （令和5年7月～8月）

農産物	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
<b>冷凍食品</b>					
アスパラガス	1	0			
ブロッコリー	2	0			
ほうれんそう	2	1	アセタミプリド	0.16	3
			アゾキシストロビン	0.20	30
			クロチアニジン	0.04	40
			チアメトキサム	0.07	10
<b>市内産農産物</b>					
なす	2	0			
日本なし	8	8	ジノテフラン	0.02	1
			チアメトキサム	0.04	1
			フェンプロパトリン	0.06	2
			ペルメトリン	0.08	2
			ボスカリド	0.01	3
			クレソキシムメチル	0.13	5
			ジノテフラン	0.06	1
			ヘキサコナゾール	0.02	0.3
			ボスカリド	0.09	3
			クレソキシムメチル	0.21	5
			ブプロフェジン	0.04	6
			アセタミプリド	0.02	2
			クレソキシムメチル	0.28	5
			クロルフェナピル	0.01	1
			ジノテフラン	0.06	1
			ヘキサコナゾール	0.03	0.3
			アセタミプリド	0.03	2
			クロチアニジン	0.01	1
			ジノテフラン	0.02	1
			チアメトキサム	0.04	1
			フェンプロパトリン	0.10	2
			ボスカリド	0.08	3
			ジノテフラン	0.08	1
			フェンプロパトリン	0.12	2
			ボスカリド	0.05	3

表1(続き) 市内産農産物及び冷凍食品の残留農薬検査結果

農産物	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
日本なし			クレソキシムメチル	0.11	5
			クロルフェナピル	0.02	1
			ジノテフラン	0.05	1
			チアメトキサム	0.01	1
			フェンプロパトリン	0.17	2
			アセタミプリド	0.01	2
			クレソキシムメチル	0.20	5
			クロルフェナピル	0.13	1
			チアメトキサム	0.04	1
			ボスカリド	0.13	3

注) 中括弧 ( ) はそれぞれ同一検体から検出されたもの

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物			農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物		
		A	B	C			A	B	C
BHC (α, β, γ 及び δ の和)	0.005	○	—	○	シハロトリン	0.01	○	○	○
DDT (DDE,DDD,DDTの和*)	0.005	○	○	○	ジフェノコナゾール	0.01	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	シフルトリン	0.01	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	シフルフェナミド	0.01	○	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	シプロコナゾール	0.01	○	○	○
アセフェート	0.01	○	○	○	シペルメトリン	0.01	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	ジメトエート	0.01	○	○	○
アラクロール	0.01	○	○	○	ジメトモルフ	0.01	○	○	○
アルドリノ及びディルドリン	0.005	○	—	○	シラフルオフエン	0.01	○	○	○
イソキサチオン	0.01	—	○	○	ダイアジノ	0.01	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	ダイムロン	0.01	○	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	チアクロプリド	0.01	○	○	○
エトキサゾール	0.01	○	○	○	チアメトキサム	0.01	○	○	○
エトフェンプロックス	0.01	○	○	○	テトラコナゾール	0.01	○	○	○
エポキシコナゾール	0.01	○	○	○	テブコナゾール	0.01	○	○	○
エンドスルファン (α 及び β の和)	0.005	○	○	○	テブフェノジド	0.01	○	○	○
オキサミル	0.01	○	○	○	テブフェンピラド	0.01	○	○	○
カルバリル	0.01	○	○	○	テフルトリン	0.01	○	○	○
カルプロパミド	0.01	○	○	○	トリアゾホス	0.01	○	○	○
クミルロン	0.01	○	○	○	トリチコナゾール	0.01	○	○	○
クレソキシムメチル	0.01	○	○	○	トリフルラリン	0.01	○	—	○
クロチアニジン	0.01	○	○	○	トリフロキシストロビン	0.01	○	○	○
クロマフェノジド	0.01	○	○	○	トルクロホスメチル	0.01	○	○	○
クロルピリホス	0.01	○	○	○	トルフェンピラド	0.01	○	○	○
クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	ノバルロン	0.01	○	○	○
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	パラチオン	0.01	○	○	○
クロルプロファム	0.01	○	○	○	パラチオンメチル	0.01	○	○	○
クロロクソン	0.01	○	○	○	ピフェントリン	0.01	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	ピリダベン	0.01	○	○	○
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	ピリプロキシフェン	0.01	○	○	○
シアノホス	0.01	○	○	○	ピリミカーブ	0.01	○	○	○
ジエトフェンカルブ	0.01	○	○	○	ピリミノバックメチル	0.01	○	○	○
ジコホール	0.01	○	○	○	ピリミホスメチル	0.01	○	○	○
ジノテフラン	0.01	○	○	○	ファモキサドン	0.01	○	○	○

表2(続き) 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出限界 (ppm)	農産物			農薬名	検出限界 (ppm)	農産物		
		A	B	C			A	B	C
フィプロニル	0.002	○	○	○	プロピコナゾール	0.01	○	○	○
フェナリモル	0.01	○	○	○	プロピザミド	0.01	○	○	○
フェントロチオン	0.01	○	○	○	プロモプロピレート	0.01	○	○	○
フェノブカルブ	0.01	○	○	○	ヘキサコナゾール	0.01	○	○	○
フェンクロロホス	0.01	○	○	○	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	○	—	○
フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○
フェントエート	0.01	○	○	○	ペンコナゾール	0.01	○	○	○
フェンバレレート	0.01	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○
フェンピロキシメート	0.01	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○
フェンブコナゾール	0.01	○	○	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○
フェンプロパトリン	0.01	○	○	○	ボスカリド	0.01	○	○	○
フサライド	0.01	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○
ブタフェナシル	0.01	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○
ブプロフェジン	0.01	○	○	○	ミクロブタニル	0.01	○	○	○
フルジオキシニル	0.01	○	○	○	メタミドホス	0.01	—	○	○
フルシトリネート	0.01	○	○	○	メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	○	○	○
フルトラニル	0.01	○	○	○	メチダチオン	0.01	○	○	○
フルバリネート	0.01	○	○	○	メキシフェノジド	0.01	○	○	○
フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	メトラクロール	0.01	○	○	○
フルリドン	0.01	○	○	○	リニューロン	0.01	○	○	○
プロシミドン	0.01	○	○	○	リンデン( $\gamma$ -BHC)	0.005	○	○	○
プロチオホス	0.01	○	○	○	ルフエヌロン	0.01	○	○	○
プロバホス	0.01	○	○	○	レナシル	0.01	○	○	○

農産物の種類 A:ブロッコリー、ほうれんそう B:アスパラガス、なす C:日本なし

○:実施、—:実施せず

\*DDTは $p,p'$ -DDE、 $p,p'$ -DDD、 $o,p'$ -DDT及び $p,p'$ -DDTの和

### 【農薬解説】

今回は、複数の農産物から検出された農薬を紹介します。

#### クレソキシムメチル

ストロビルリン系殺菌剤で、幅広い抗菌活性があり、特にうどんこ病、黒星病、べと病などに対して有効です。小麦、野菜類、果樹などに用いられます。

#### ジノテフラン

ネオニコチノイド系の殺虫剤で、吸汁加害するカメムシ目害虫などに効果を示します。薬剤抵抗性が問題化しているイネドロオイムシや土壌害虫であるキスジノミハムシなどに優れた効果があります。

#### チアメトキサム

ネオニコチノイド系の殺虫剤で、野菜、果樹、芝のアブラムシ類、カメムシ類、コガネムシ類などの幅広い害虫種に効果があります。効果の発現が早く、長い残効性も認められます。

#### ボスカリド

ピリジんカルボキサミド骨格をもつ殺菌剤です。灰色かび病、菌核病に効果があり、従来の殺菌剤に耐性を示す病害に対しても有効です。

### ※参考文献

・社団法人日本植物防疫協会、農薬ハンドブック2021年版

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

# 衛生研究所ウェブページ情報（令和5年10月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイトと統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和5年10月の追加・更新記事について報告します。

## 1 追加・更新記事

令和5年10月に追加・更新した主な記事は、13件でした。

掲載月日	内容
10月2日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果（速報版第10回）
10月3日	熱中症情報（2023年10月2日） 感染症に気をつけよう（10月号）
10月5日	横浜市インフルエンザ流行情報 4号 横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果
10月12日	横浜市インフルエンザ流行情報 5号 横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果
10月17日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果（速報版第11回）
10月18日	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果
10月19日	横浜市インフルエンザ流行情報 6号
10月26日	横浜市インフルエンザ流行情報 7号
10月27日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果（速報版第12回）
10月30日	感染症に気をつけよう（11月号）

## 2 記事紹介

横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/byogentai/covid-19genome.html>

熱中症情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/hokenjoho/wadai/necchusho/heatstroke.html>

感染症に気をつけよう

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shimin/kiwotukekyou.html>

横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/byogentai/infc-kabaikai.html>

横浜市インフルエンザ流行情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/rinji/influenza-rinji-2023.html>

【 感染症・疫学情報課 】

# 横浜市感染症発生動向調査報告（令和5年10月）

## 《今月のトピックス》

- インフルエンザは流行注意報が発令されています。手洗いや咳エチケットなどの感染対策を心がけましょう。
- 梅毒が20歳代～50歳代を中心として多く発生している他、性器クラミジア感染症などの性感染症も増加しており、注意が必要です。
- 咽頭結膜熱の報告数が増加しています。

### ◇ 全数把握の対象

＜10月期に報告された全数把握疾患＞

腸管出血性大腸菌感染症	14件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
デング熱	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
マラリア	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
レジオネラ症	3件	水痘(入院例に限る)	1件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	4件	梅毒	25件
急性脳炎	1件		

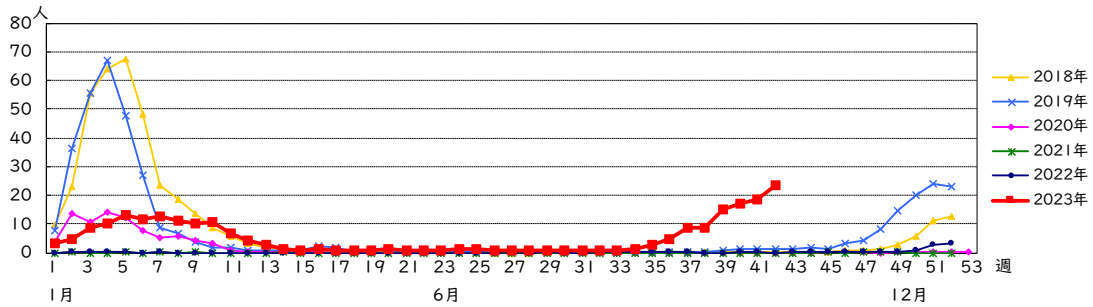
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～50歳代で、血清群O157が8件、O26が2件、Og110が1件、O142が1件、O血清不明が2件です。経口感染と推定される報告が4件、接触感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が8件ありました。
- 2 **E型肝炎**:60歳代で、感染経路等不明です。
- 3 **デング熱**:60歳代で、海外での蚊からの感染と推定されています。
- 4 **マラリア(熱帯熱)**:30歳代で、海外での動物・蚊・昆虫等からの感染と推定されています。
- 5 **レジオネラ症**:70歳代～90歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 6 **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:50歳代～80歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 7 **急性脳炎**:10歳未満で、感染経路等不明です。
- 8 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:60歳代および70歳代で、いずれも血清群はA群で、感染経路は創傷感染と推定されています。
- 9 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:20歳代～40歳代で、性的接触(同性間)での感染と推定される報告が3件、輸血・血液製剤(海外)と推定される報告が1件です。
- 10 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:90歳代(ワクチン接種歴無不明)で、感染経路等不明です。
- 11 **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴3回1件、1回1件、無1件、不明2件)で、接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 12 **水痘(入院例に限る)**:50歳代(ワクチン接種歴無)で、飛沫・飛沫核感染と推定されています。
- 13 **梅毒**:10歳代～90歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期6件、早期顕症梅毒Ⅱ期8件、無症状病原体保有者11件です。性的接触による感染と推定される報告が21件(異性間20件、同性間1件)、感染経路等不明の報告が4件ありました。

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第39週	9月25日～10月1日
第40週	10月2日～10月8日
第41週	10月9日～10月15日
第42週	10月16日～10月22日

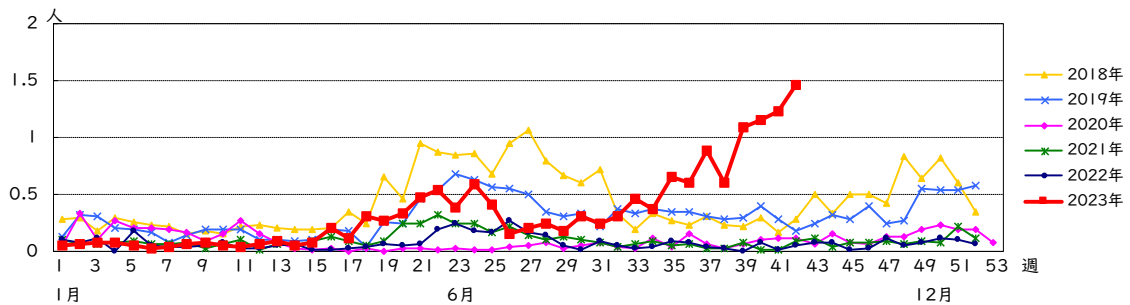
1 インフルエンザ:

第34週以降増加が続き、第39週 14.86 で流行注意報発令基準値(定点あたり10.00)を上回りました。第42週は23.63です。  
詳細は、横浜市インフルエンザ流行情報7号をご参照ください。



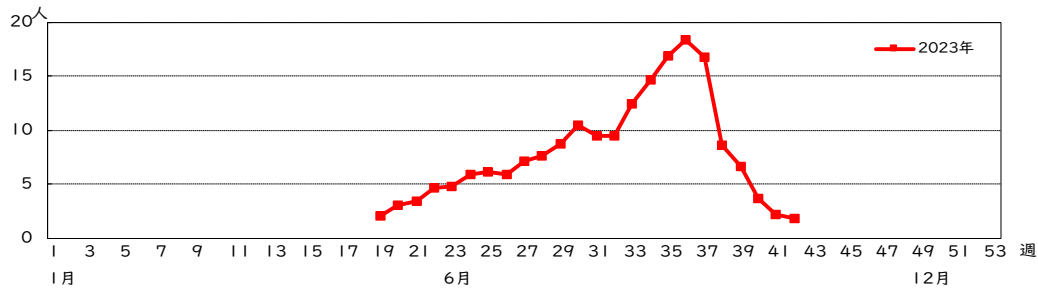
2 咽頭結膜熱:

第30週以降増加傾向が続き、第39週 1.08、第40週 1.14、第41週 1.23、第42週 1.46 と推移しています。



3 新型コロナウイルス感染症:

2023年第19週より定点報告となりました。第36週 18.38 をピークに、第42週は1.81 に減少しています。



4 性感染症(9月)

性器クラミジア感染症	男性:47件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:7件	女性:16件
尖圭コンジローマ	男性:9件	女性:7件	淋菌感染症	男性:16件	女性:4件

5 基幹定点週報

	第39週	第40週	第41週	第42週
細菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00	0.25
無菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.50	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.25
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(9月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	16件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-



## ◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

## 〈ウイルス検査〉

10月期(2023年第39週～第42週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点28件、内科定点4件、基幹定点3件、定点外医療機関からは1件でした。

11月1日現在、表に示した各種ウイルスの分離18株と遺伝子14件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2023年第39週～第42週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	イン フル エン ザ	手足 口 病	感 冒
インフルエンザウイルス AH3型		7 4		
インフルエンザウイルス B型Victoria		- 1		
アデノウイルス 3型	7 1			
アデノウイルス 54型	1 -			
アデノウイルス 型未同定	- 1		- 1	
パラインフルエンザウイルス 2型	2 -			
コクサッキーウイルス A2型	- 1			
コクサッキーウイルス A16型			1 -	
ヒトコロナウイルス OC43	- 1			
ヒトコロナウイルス 229E		- 1		
ライノウイルス	- 1			- 1
パレコウイルス 6型	- 1			
合 計	10 6	7 6	1 1	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

## 〈細菌検査〉

10月期(2023年第39週～第42週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点から腸管出血性大腸菌1件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌2件、劇症型溶血性レンサ球菌1件、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌1件、BCG鑑別1件、レジオネラ属菌1件でした。非定点からの依頼はありませんでした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌14件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌2件、侵襲性インフルエンザ菌2件、侵襲性肺炎球菌1件、劇症型溶血性レンサ球菌1件でした。

「分離同定」の検査依頼は、基幹定点から細菌遺伝子検索1件、保健所からレジオネラ属菌1件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は、咽頭炎、咽頭痛、咳2件でした。

また、その他の依頼として、民間検査機関からジフテリア菌毒素遺伝子の検査依頼が1件ありました。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2023年第39週～第42週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等	
医療機関	基幹定点	腸管出血性大腸菌	1	O157:H7 VT1 VT2 (1)	
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	2	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)	
		劇症型溶血性レンサ球菌	1	A群溶血性レンサ球菌 (1)	
		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	1	<i>Staphylococcus aureus</i> enterotoxin A産生 (1)	
		BCG鑑別	1	<i>Mycobacterium bovis</i> BCG (1)	
		レジオネラ属菌	1	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)	
保健所		腸管出血性大腸菌	14	O157:H7 VT1 VT2 (4)、O157:H7 VT2 (3)、O157:H- VT1 VT2 (1)、Og76:H19 VT1 (1)、Og76:H7 VT1 (1)、Og100:Hg20 VT2 (1)、Og105:Hg7 VT2 (1)、Og110:Hg28 VT1 (1)、O142:Hg38 VT1 (1)	
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	2	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)	
		侵襲性インフルエンザ菌	2	<i>Haemophilus influenzae</i> (2)	
		侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)	
		劇症型溶血性レンサ球菌	1	A群溶血性レンサ球菌 (1)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等	
医療機関	基幹定点	穿刺液	細菌遺伝子検索	1	<i>Streptococcus angiosus</i> groupの遺伝子検出 (1)
保健所		喀痰	レジオネラ属菌	1	培養陰性 (1)
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	咽頭ぬぐい液	咽頭炎、咽頭痛、咳	2	培養陰性 (2)	
その他依頼	菌株	検査項目	検体数	同定、血清型等	
民間検査機関	ジフテリア菌	毒素遺伝子	1	毒素遺伝子 陰性 (1)	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】